

## 臨床麻酔部

### ■ スタッフ

|         |       |
|---------|-------|
| 教授      | 宮部 雅幸 |
| 准教授     | 亀井 政孝 |
| 助教      | 坂倉 庸介 |
|         | 木村準之介 |
|         | 中西まどか |
|         | 吉住 祐紀 |
| 医員      | 4人    |
| 麻酔支援看護師 | 2人    |

### ■ 部門の特色

臨床麻酔部は中央手術室における麻酔と手術室以外での全身麻酔が必要な検査、治療の麻酔管理を担当しています。近年手術治療はめざましい進歩をとげてきましたが、これは麻酔の進歩抜きには考えられません。当部門では最新の麻酔薬、器具、モニタを整備し安全な麻酔管理を提供しています。また外科医と良好なコミュニケーションをとり、最良の治療を提供しています。

### ■ 診療体制と実績

#### 1. 業務体制

##### 1) 中央手術室における手術麻酔

中央手術室には16の手術室があります。通常9件の手術が同時に進行します。このうち局所麻酔で行われる小手術以外のすべての手術の麻酔管理をすべて担当しています。

##### 2) サテライトファーマシー

手術室内に薬剤師2人が常駐しています。主な業務は(1)患者ごとに用意した麻酔薬、輸液、抗生剤などの薬剤セットの各手術室への配置、(2)麻薬、筋弛緩薬の払い出しと使用後の処理、(3)硬膜外持続注入用インフューザポンプの充填と配置、(4)観血的動脈圧測定用エア抜きへパリン化生食500mlの用意、(5)小児・成人麻酔の薬液調整などです。麻薬、筋弛緩薬の管理は重要ですが、これらを薬剤師が管理するため、麻酔科医は本来の業務に専念できます。

##### 3) 手術室管理システム

当院では手術室管理システム/自動麻酔記録装置としてH24年1月からCIS-OR (clinical information system OR)を採用しています。本システムには手術申込、手術予定作成、麻酔管理支援、薬剤・医療材料の保険請求、統計処理などの機能が備わっています。

### システムの特徴

中央ステータスマニタはもとより、各端末から他の部屋の進行状況が分かります。進行状況では入室、手術中、手術終了、退出などが識別できます。各端末から症例の割付の変更が可能です。急な部屋の移動に対応できます。

#### 4) 自動麻酔記録装置

生体モニタ情報を取り込み、血圧、心拍数、動脈血酸素飽和度、体温などを自動的に記録します。これにより麻酔科医の記録作成の労力が大幅に軽減されたばかりでなく、正確な記録が作成できるようになりました。

#### ナビゲーションボタン

入室、麻酔開始、手術開始などの事項が順番にボタンとして表示されていて、イベントごとにボタンを押すと麻酔記録に反映されます。

#### 波形表示

波形表示ボタンを押すと心電図をはじめとする各種原波形が表示されます。過去の心電図の変化、イベントがおきた場合の波形を検討することができます。

#### 参照モード

各端末から他の手術室の現在の麻酔記録を見ることができます。

#### 2. 診療実績

|      |              |       |
|------|--------------|-------|
| 手術件数 | 1) 総手術件数     | 6871件 |
|      | 2) 麻酔部管理症例件数 | 5189件 |
|      | 3) 放射線部等検査麻酔 | 186件  |

### ■ 当科スタッフの取得専門医

麻酔科2年の研修で厚労省から麻酔科標榜医、麻酔科学会から麻酔科認定医が与えられますが、標榜医(認定医)取得後2年以上の実績で麻酔科専門医が取得できます。さらに大学などの指導実績があれば麻酔科指導医が与えられます。

### ■ 診療内容の特色と治療実績

当院では小児外科を中心とした小児の大手術が多く行われています。小児でも当然痛みを感じる上、痛みを言葉で伝えることができず、術後外科医が苦慮するところですが、臨床麻酔部では小児硬膜外麻酔を積極的に行い、外科医、患児の親から好評を得ています。

### ■ 今後の展望

当院でもTAVI(経カテーテル大動脈弁留置術)治療が始まり、心臓麻酔のより高度な技術が必要となるため、心臓血管麻酔専門医の育成に努めています。